

飲食料品製造業における運輸コストの推移に関する考察 ー 接続産業連関表を用いた分析からー

中田 哲也 (農林水産省統計部)
tnakata@affrc.go.jp

構成

1. はじめに
2. 分析の枠組み
3. 飲食料品製造業の運輸コスト
 - 1) 産業全体の中での特徴
 - 2) 飲食料品製造業の状況
4. 結論と考察

はじめに

1 産業連関表を用いたフードシステムにおける流通コストの先行研究

(1) 薬師寺哲郎「食用農水産物・食料品のマージン率」(2003)

商業マージンに焦点。

(2) 中田哲也「フードシステムにおける輸送コストに関する考察」『フードシステム研究』第19巻3号、2012、pp.347-350。

産業連関表の購入者価格表(産出表)における国内貨物運賃の額の推移に着目。

- ・ 飲食料品部門における運賃率の上昇が全産業の貨物運賃を上昇
- ・ 飲食料品部門においては道路輸送の割合が高い
- ・ 特に調味料、そう菜・すし・弁当、清涼飲料など、消費者の簡便化志向等を反映して需要が増加している品目において運賃率が大きく上昇

2 本稿の視点

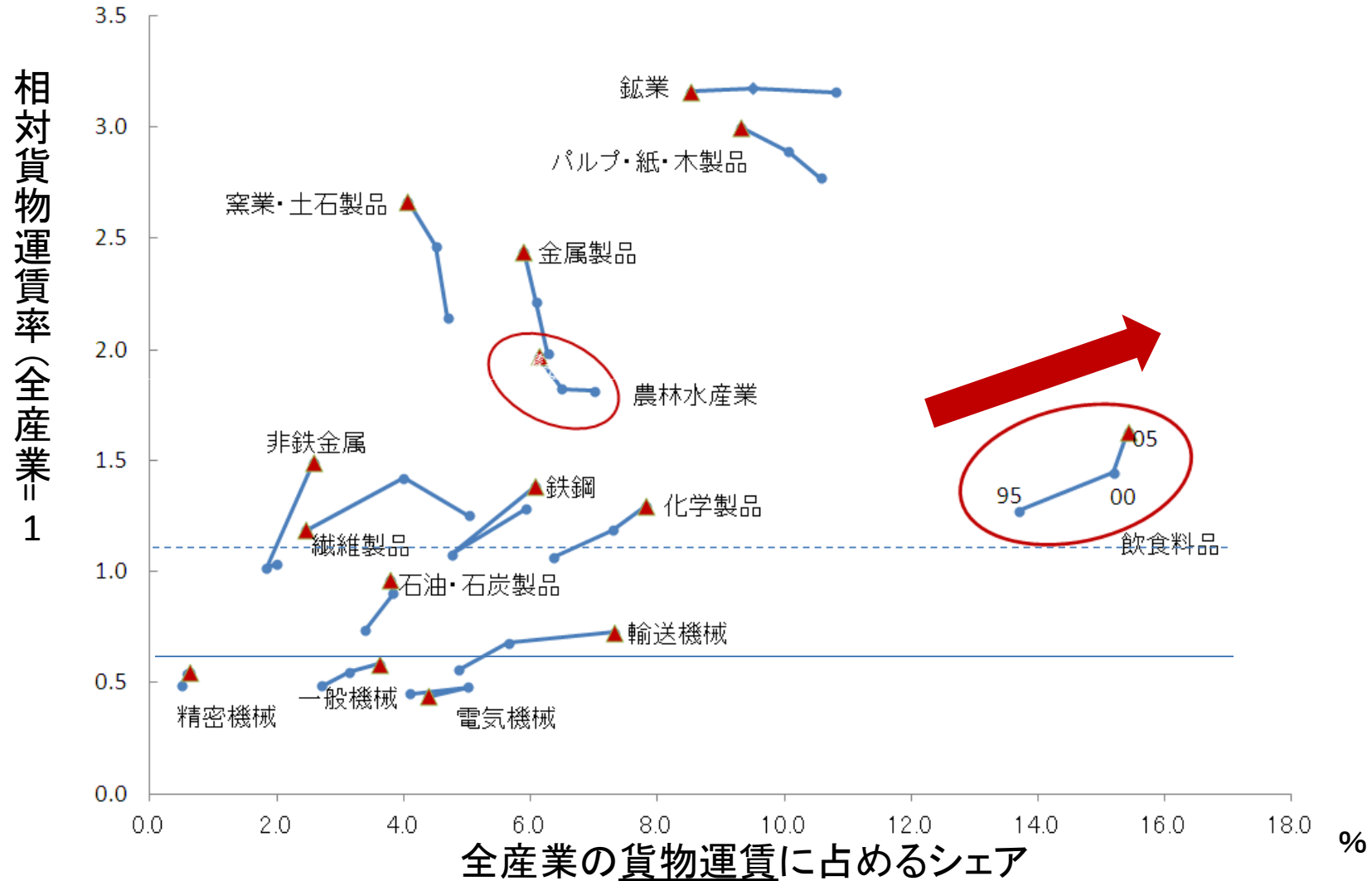
飲食料品製造業に着目。

その製造過程における運輸コストの推移と、その背景にある要因を考察

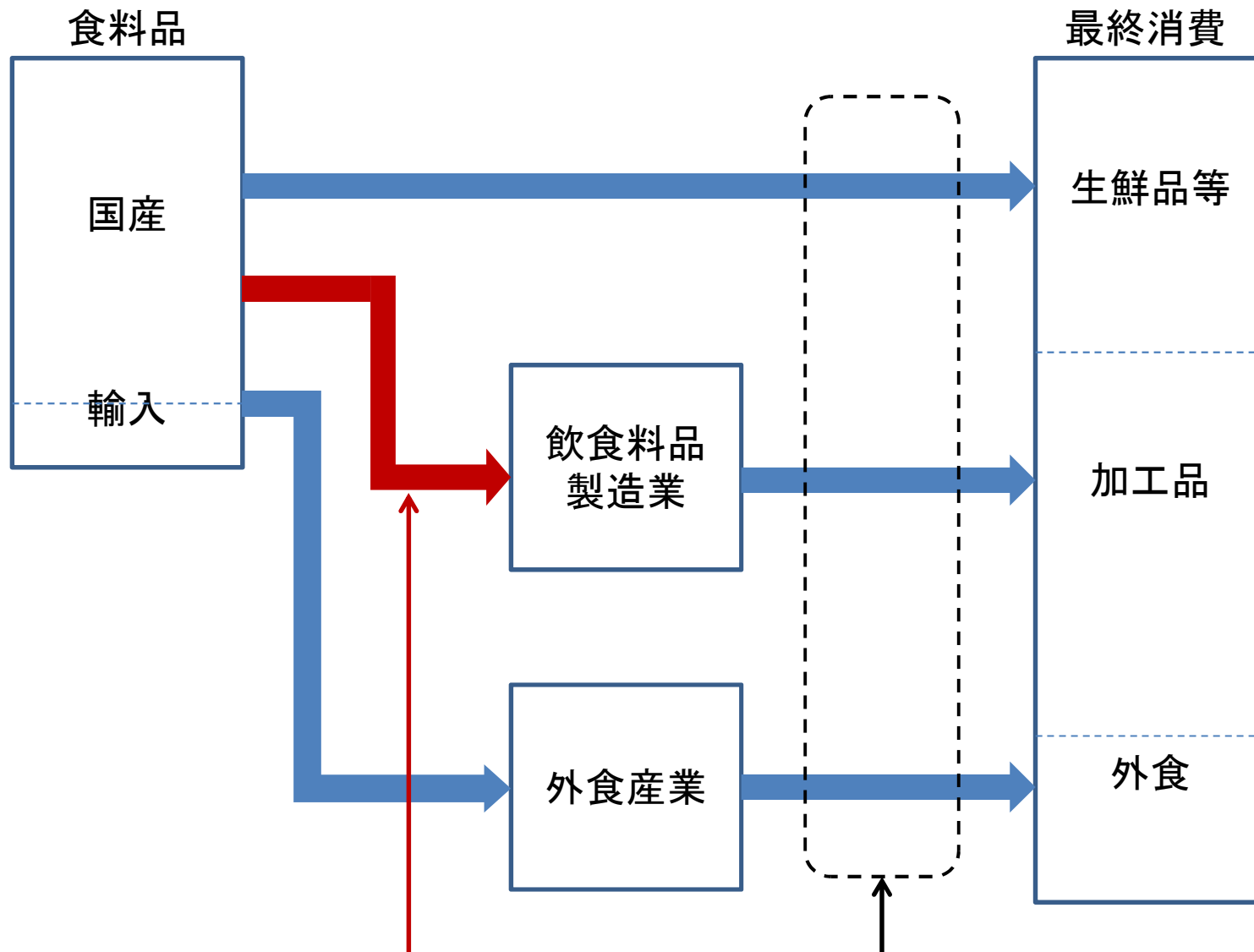
飲食料品部門の特色(1)

産業全体の中での貨物運賃のシェアを高めつつ、輸送コスト(相対貨物運賃率)も上昇。

図1 貨物運賃のシェアと相対貨物運賃率の推移(1995→2000→2005年)



フードシステムと産業連関表



【今年度の報告: 飲食料品製造業のコストに着目】

【昨年度の報告: 最終消費に着目】

2 分析の枠組み

飲食料品製造業の製造過程における運輸コストの推移を把握するため「産業連関表」を使用。

(1) 産業連関表とは

- ・ 国内経済において一定期間(通常1年間)に行われた全ての財・サービスの産業間取引を1つの行列(マトリックス)に示した統計表。
- ・ おおむね5年毎に作成
最新の産業連関表は2005年表(2009.3公表)
現在、2011年表の作成作業が行われているところ(2015年公表予定)。

(2) 産業連関表の価格の評価方法

- ① 生産者価格評価表: 個々の取引を生産者の「出荷価格」で評価
- ② 購入者価格評価表: ①に商業マージン及び国内貨物運賃を加えたもの

(3) 産業連関表の価格の評価方法

- ① 投入表: 財、サービスの生産にあたり投入された原材料、粗付加価値の構成
- ② 産出表: 生産された財・サービスの販売(産出)先の構成

(4) 時系列分析について

- ・ 「接続産業連関表」(7-12-17年)を使用

3 分析結果

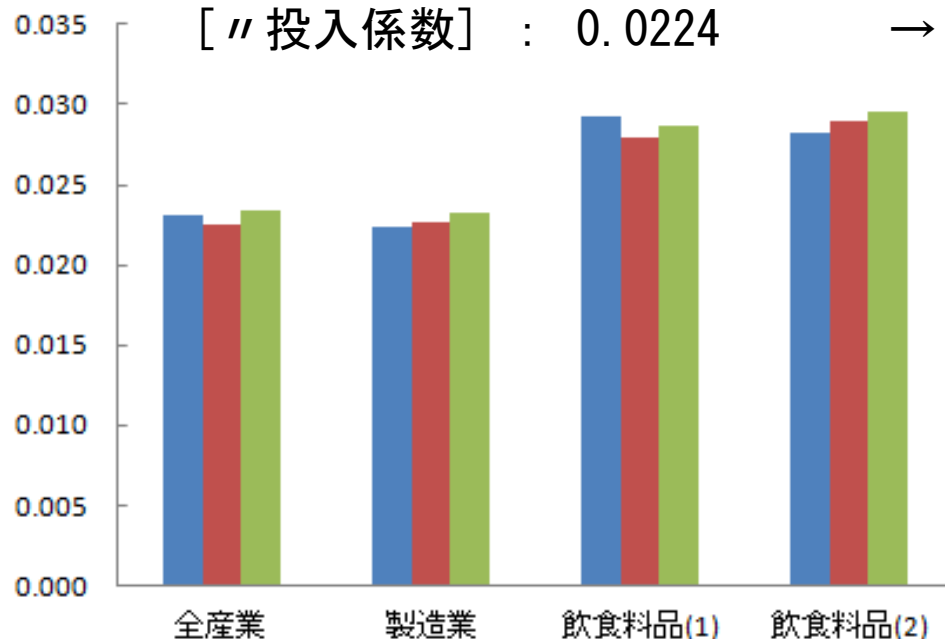
1) 産業全体の中での特徴

(1) 全産業の国内生産額等 (1995、2000年は実質値、以下同じ。)

	1995年	→	2000	→	2005
・ 国内生産額	885.9 兆円	→	921.9	→	961.6
・ 運輸の投入額	20.5 兆円	→	20.7	→	22.5
[// 投入係数]	0.0231	→	0.0225	→	0.0234

(2) 製造業の国内生産額等

	1995年	→	2000	→	2005
・ 国内生産額	294.3 兆円	→	294.2	→	304.7
・ 運輸の投入額	6.6 兆円	→	6.7	→	7.1
[// 投入係数]	0.0224	→	0.0226	→	0.0233



生産額に占める運輸コストの割合
(運輸の投入係数)

■ 1995
■ 2000
■ 2005

出典: 総務省「平成7-12-17接続産業連関表」
から筆者作成

注: 飲食料品(2)とは、学校給食、飼料・有機質肥料及びたばこを除いたものである。

製造業の国内生産額と運輸の投入額(運輸コスト)の推移

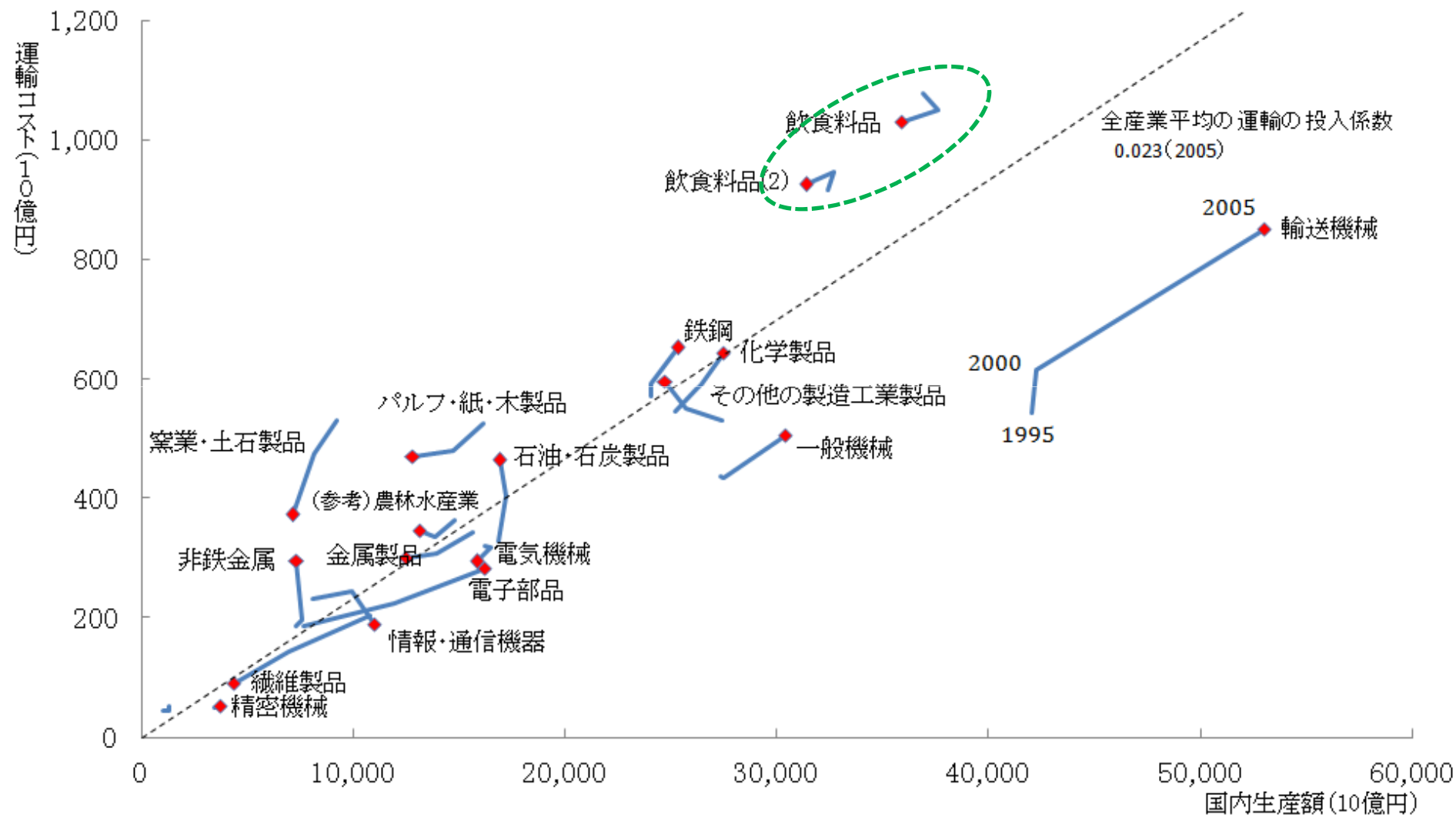


図 国内生産額と運輸コストの推移(1995-00-05年、全産業)

資料:総務省「平成7-12-17年接続産業連関表」

註:飲食料品(2)は、学校給食、肥料・有機質資料及びたばこを除いたものである。

3 分析結果

2) 飲食料品製造業の特徴

(1) 飲食料品製造業(1)の国内生産額等

	1995年	2000	2005
・国内生産額	: 36,881 十億円	→ 37,623	→ 35,889
・運輸の投入額	: 1,078 十億円	→ 1,049	→ 1,030
[// 投入係数]	: 0.0292	→ 0.0279	→ 0.0287

(2) 飲食料品製造業(2)の国内生産額等

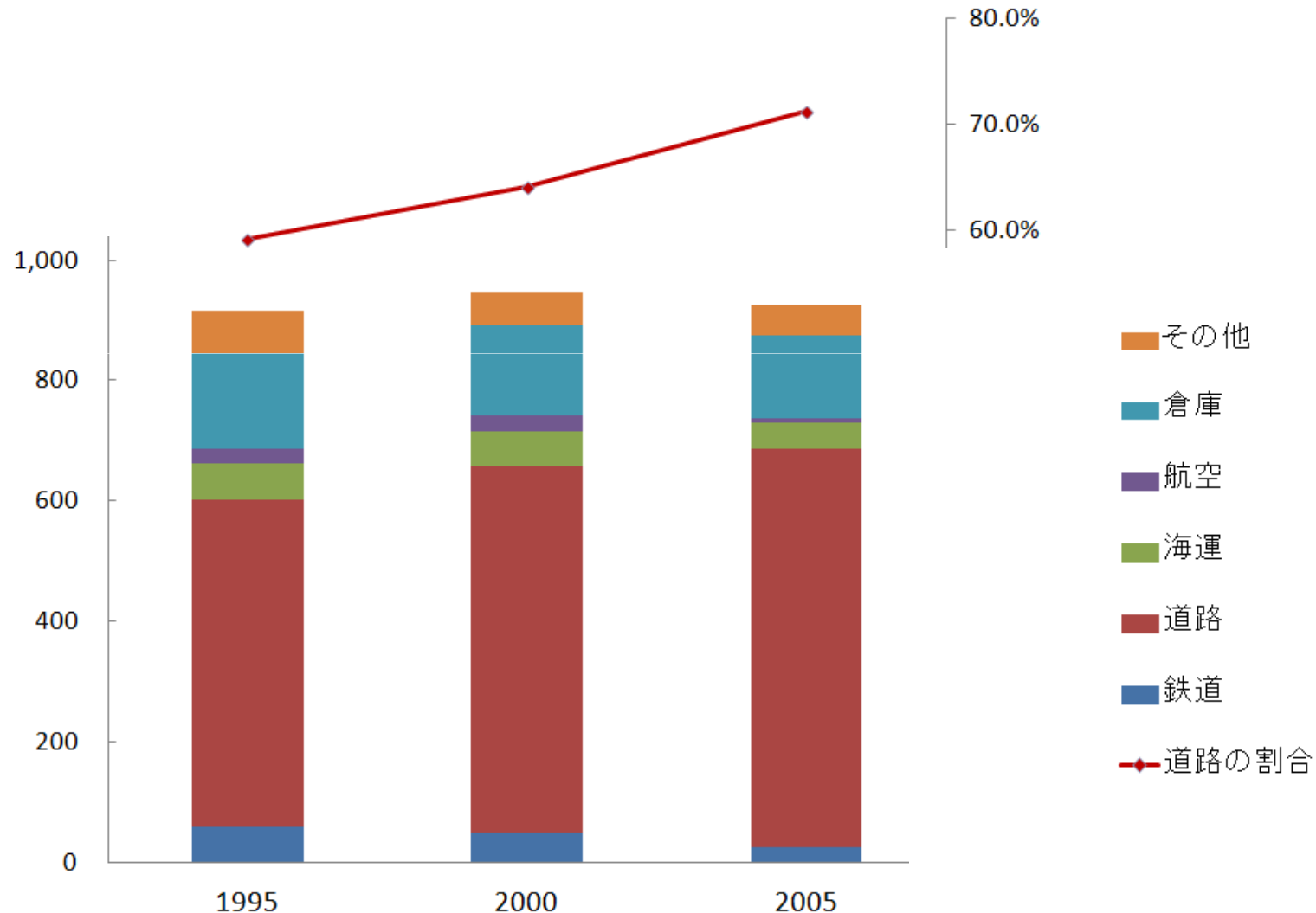
	1995年	2000	2005
・国内生産額	: 32,439 十億円	→ 32,695	→ 31,389
・運輸の投入額	: 917 十億円	→ 947	→ 926
[// 投入係数]	: 0.0283	→ 0.0290	→ 0.0295

出典: 総務省「平成7-12-17接続産業連関表」

注: 飲食料品(2)とは、学校給食、飼料・有機質肥料及びたばこを除いたものである。

飲食料品製造業(2)の運輸コストの推移(輸送機関別)

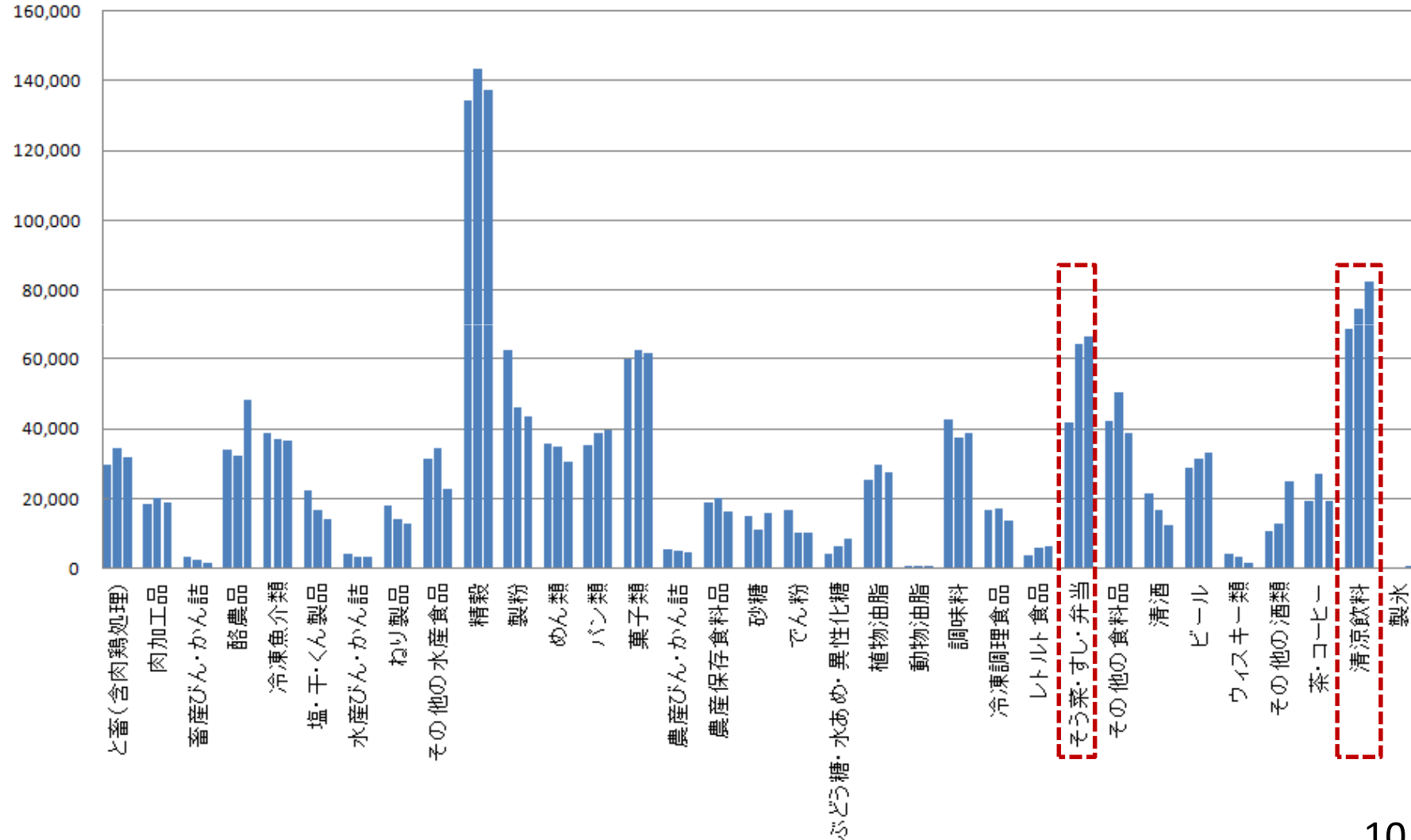
相対的に環境負荷が大きい道路貨物輸送が増加、運輸コスト全体に占める割合も上昇



出典:総務省「平成7-12-17接続産業連関表」から筆者作成

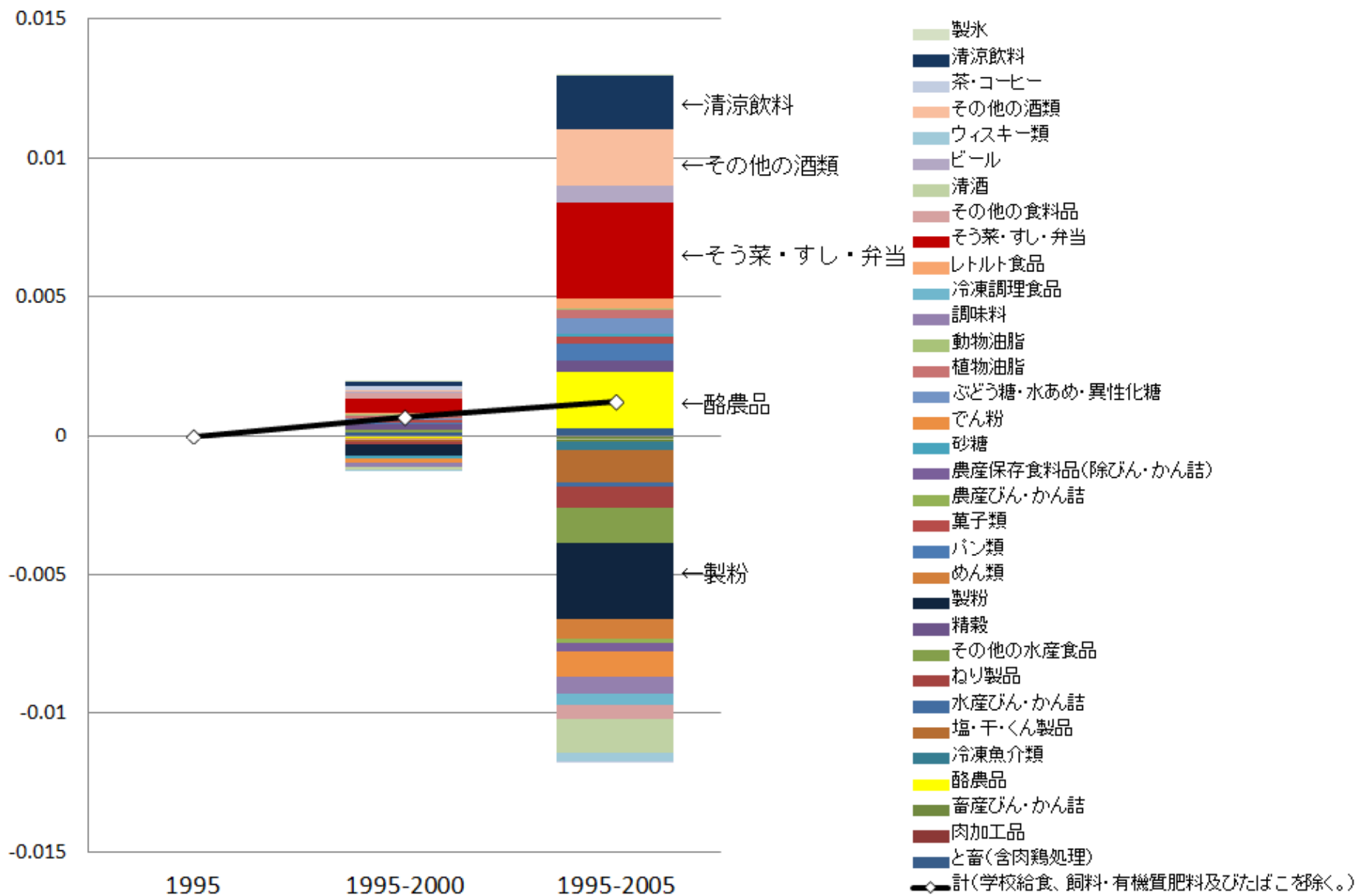
飲食料品製造業における運輸コストの推移(部門別)

そう菜・すし・弁当、清涼飲料等の部門において運輸コストが増大



出典:総務省「平成7-12-17接続産業連関表」から筆者作成

飲食料品製造業における運輸コスト増減の寄与度(部門別)



出典:総務省「平成7-12-17接続産業連関表」から筆者作成

4 結論と考察

(1) 明らかとなった事実

- ① 飲食料品製造業は相対的に運輸コストが高い部門
また、環境負荷が大きい道路輸送に対する依存度を高めている。
- ② 飲食料品製造業における運輸コストの推移の状況は一律ではない。
ライフスタイルの変化等により、そう菜・すし・弁当や清涼飲料等に対する需要(生産額)が増大していることが、飲食料品製造業全体の運輸コストの増大に寄与

(2) 考察

- ① 日本のフードシステムにおいては、食生活が多様化し、簡便な「中食」の市場規模が拡大していること等が、最終需要面だけではなく、飲食料品の製造段階においても運輸コストが上昇している背景にあるものと考えられる。
- ② 今後、運輸コストの状況をさらに詳細に分析し、フードシステムにおける運輸コスト低減の可能性と方策について検討していくことが必要。